

平成28年3月22日

足立区立湊江中学校
学校長 本杉 貴保 様

足立区立湊江中学校 開かれた学校づくり協議会
会長 山本 輝夫

平成27年度 学校関係者評価書

1. 自己評価書全般について

校長・副校長はもとより教職員の連帯感が学校運営を円滑化し、教職員の一体感が相乗効果をもたらした。生徒の学習意欲と、学校三大行事、部活動に取り組む姿は、地域の学校評価を高めている。生徒の活躍は目覚ましいものばかりだ。「全ての生徒が委員会や行事で一人一役で活躍し、自己肯定感を高めることができる学校」湊江中イズムは伝統としてさらに進化している。

課題を掲げ果敢に取り組む管理者の姿勢はすべて結果に帰するが、校長の明確なビジョンは毎年着実に具現化され評価されなければならない。また、教職員の実践と信頼は積み上げる程に成果は大きくなり、学校の総合的な高い評価は、地域のポテンシャルとも云えるのかも知れない。

自己評価書による分析・検証は適正であり潜在力ある湊江中学校として大いに期待したい。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

基礎学力の定着と学力の向上、秩序と活力のある学校生活、学力向上を視点とした教員の指導力向上を「チーム湊江」の力が遺憾なく発揮しチームワークで課題に取り組まれている。年間102日の補充教室の取り組みにより、基礎学力の定着を図ったが、来年度は学力の向上に向けて応用問題を取り入れた取り組みで成果を上げることが望まれる。

ボランティア活動も生徒・先生の活躍は地域で際立って高い。生徒会役員や部活動単位での行事への積極的な参加は、地域で高い評価を受けている。特に、校長、副校長の献身的な参加は地域貢献を果たしている。

3. その他

「学力向上の推進」「三大行事、委員会等の充実」「一人一役で活躍」の基本方針のもと、年齢に相応しい今を湊江中学校で体験、実践して学ぶ。湊江中の教育活動はまさに人間調整能力を学ぶ場だ。それぞれが違うステージで輝く役割を学ぶ実学以上の何物でもない、心の修練場だ。基礎学力は必ず「主体的に学ぶ生徒」「使命感に燃える教師集団」の相互に力を発揮するであろう。信頼関係は必ずや成就する。